



Subaru

男声合唱団 ニュース№661 '18. 8. 31

「昂」第18回総会を開催 ー =SIYAHAMBA(われらは進みゆく)=

8月26・27日

第12回コンサート(2019年2月22日(金))に向けて

□8月27日(月)9:00~12:00新大阪ココプラザ美術工房(大阪市立青少年センター)にて、昂第18回総会が開催されました。昂の2017年度の活動の総括と、これから1年(2018年9月~)の活動方針等を決める大事な会議となりました。総会に先立ち、前日の夕食後、19:30から約2時間半、懇親会を開き、日頃の昂の団員の健闘をねぎらい、今後の活躍を期して乾杯し、なごやかな懇談の時間をすごし、1泊2日の合宿総会となりました。総会の参加者は34名、懇親会も34名(小林君+婚約者を含む)でした。

□活発な討議の総会

□まず最初に千秋団長から開会の挨拶を兼ねて、「うたごえ70周年の年の2.22コンサートを必ず成功させよう!」と、次のようなメッセージが出されました。

「うたごえ70周年を迎えるのは大変喜ばしいことである。また昂は創立18年を迎えることができた。これらは一つに、戦後74年、国権による武力で他国民を殺し、あるいは殺されることがなかった平和な時代で、活動できたことに感謝したい。平和憲法の偉大さに敬意を払いたい。昂のこれから活動の基本に、平和憲法のもとで活動することを据えたい。

2018年は停戦状態のまま続いている朝鮮で、武力ではなく対話での平和路線が始まったことである。核のない朝鮮を目指す歴史がはじまった。素直にこの方向性を喜びたい。このことにより、朝鮮有事にむけた武力配備、軍事費増強の必要性がなくなる。軍事費削減の可能性が膨らむ。他の紛争地域へもプラスの影響を及ぼす。

被爆国日本が、世界に核のない世界を求める道が広がる。核のない世界へ向け、昂も歌っていきたい。

働き方改革が残業を当たり前にし、過労死を招く財界のみが喜ぶ。このような状況の中で働く者の声を昂は歌っていきたい。

来年2019年は12回目のコンサートを千秋とジョイントの形で行う。座席指定のいづみホールを満席にするのは容易ではない。また昂全体の団結が求められる。昂とりサイタルと一つのものとして成功させよう。

そしてコンサートに足を運んでくださったみなさんが昂に入りたいと思わせる演奏をしよう。昂を紹介したいと思わせる演奏をしよう。団員をうんと増やそう。昂は音楽の場であり、人生の場でもある。新しい団員と「昂人生」を共に歩もう。」



□大畠議長を選出し、配布済みの「第18回総会議案書」に基づき、「この1年を振り返って」の活動報告が立川事務局長から、次に「これからの1年の活動を展望して」としての活動計画が伊藤副指揮者から行われました。

○「この1年を振り返って」の活動報告と「これからの1年の活動の展望」についての報告を受けて、質疑応答・意見交換が行われた。今後の検討と実施に向けて積極的な

意見が何点か提案・応答がありました。

「4. 昇公演活動の活発化を」に関連して、

- ① •「対外的活動が、昇 11 回コンサート以外になかった点について、もっと積極的に。対外活動をすることで歌の内容も変わり、コンクール合格にもつながるのではないか」
 - ・「打って出た活動をしないと私たちの思いが届けられない」
 - ・「打って出る活動」について、具体的にどうするか？例えば一昨年の中学校での合唱公演はどうだったのか？地域教育支援の一環として行った経験。地域とのかかわり、地域の活動にかかわって実現した経験の一つ。出演依頼の話があれば、具体化が可能かどうか、タイムリーに事務局長に情報提供し、集約していくことも必要では。
 - ・年明けの労連「旗開き」とのセットをすることもあってよい企画。但し、民主団体も高齢化し財政的にも、経済的余裕のない団体が多い。「演奏料いくらです」と言っていたのでは確約無い。宣伝「昇ココにあり！」でやる。団員拡大にもなるのではないか。
- 昇演奏活動出演の現状について、財政的側面から吉田財政部長の説明がありました。現状を踏まえ、今後どうしていくか検討課題とする。

②昇の宣伝活動にもなる「うたう会」の具体化を実現しよう。2019 年は選挙・東京・京都の 2 回のうたごえ祭典等、うたごえの方も忙しい年になる。昇の「うたう会」を 200～300 人規模の「ミニコンサート」的な「うたう会」にしよう。

・「うたう会」の担当者が 5 人 2017 年度より決まっているが、変更を含め、責任者を決めることも必要では。

- ③ 「3. 2020 年第 13 回昇コンサート(昇創立 20 周年記念)の企画内容の早期具体化を」に関連して
12回コンサートの日程は 2 月 22 日(金)18:30 と平日の夜になった。13回は土日を取ってほしい。いずみホールでなくてよい。開催日時と開催場所の選定をしっかりとと考えて検討して欲しい。
 - ・立川事務局長から、「今回は、第 2 回千秋ソロコンサートとのジョイントであり、いずみホールを優先した。平日・夜だからシニアは来てもらえないは消極的な考え方で動けない。平日・夜でも、コンサートの内容をしっかり訴えて、来てもらえることに自信をもって勧めてほしい。」との訴えがあった。
また、13回は土日・昼で探すことも最優先とすることとなった。

- ④ 「9. うたごえ新聞をふやす」について、「うたごえ新聞」購読の勧めを「多面的な記事内容」の紹介をしながら進めている事例や「季刊うたごえ」を「昇では運営委員を中心に 10 部は取ってほしい」との要望が大阪うたごえ協議会副会長からあった。また若園さんからは、昇団員から今回 2 名の投稿があったこと、クイズ回答で図書券が獲得できしたことなど、「うたごえ新聞の魅力」とともに、拡大の訴えもしていただきました。

○つづいて各部からの報告が、技術部(伊藤技術部長)、組織部(岡邑組織部長)、広報部(吉川広報部長)から 1 年間の活動の現状と成果と課題について、具体的な資料・数値に基づいた説明がありました。

○吉田財政部長から「2017 年度決算報告」があり、東尾・佃会計監査より、「2017 年度会計監査」について「2017 年度決算報告」が正確であるとの監査報告がありました。なお、財政部長からは、「第 11 回コンサートの収支報告」(実績)と「次年度予算と見通しについて」(予測)概算説明書の報告も行われました。

□立川事務局長より「2018 年度役員体制(案)」に基づき、次期役員体制の提案・報告が行われました。

1. 副団長：乾さんが体調不良のため辞任の申し出あり。新しく山本宏司さんを副団長にお願いしたい。
2. 運営委員から相根さんが辞任(本人申し出)。
3. 各部部員 組織部：古谷さん削除(休団中)、財政部：山本力さん(休団のため)。各パートマネージャーとサブパートマネージャーを「組織部」員とする。

以上の項目を含めた「次期役員体制の提案」が行われ、質疑が行われました。

・山本さんの副団長(新任)について、重責な役割ながら本人は承諾された。団員の積極的な協力と支えが必要であり、次に向けた副団長複数体制の検討が提案されました。



・事務局長は立川さん一人体制であるが、事務局常任委員会のようなものを作つて仕事の大変さを軽くしてはどうか？の提案があつたが、現状の運営委員会 20人態勢で現在の出席状況を堅持して、意思伝達・論議の迅速化等団運営の意思疎通を図つていきたい。当面事務的に大変で…と言うことはないので、現状事務局長でやっていきたいとの表明がありました。

・岡邑組織部長より、組織部にパートマネージャーとサブパートマネージャを加えること。本期は組織部長は岡邑で、来期以降、パートマネージャーから新組織部長を出して欲しいとの提案がありました。

□以上、長時間の報告・質問・意見提案等の討議のあと、

1. 「過去1年間の活動報告」「これから1年間の活動方針」「技術部・組織部・広報部等各部からの報告」

2. 「財政報告と会計監査報告」

3. 「次期役員の提案」 のそれぞれを、挙手により満場一致で承認し、新年度の活動も新たに、総会の幕を閉じました。

最後に「議長解任」をおこない、「閉会の挨拶」を山本新副団長が行いました。

□和やかな懇親会(26日)

千秋団長から、乾杯の音頭と挨拶があり、日頃の厳しい練習の合間、みなさん年相応に結構忙しい毎日の生活から離れ、用意されたビールを飲みかわしながら、たのしい歓談のひとときをすごしました。今年の懇親会は、昴の最年少の小林 誠さんが、フィアンセの彼女とともに参加してくれました。結婚される若々しいご両人！われわれシニアにとってもうれしい限りです。山本宏司さんから、団員の気持ちを合わせて、花束を、「花をおくろう」（詩/森田ヤエ子 曲/荒木栄）の合唱とともに贈りました。

更家さんと吉田さんにいろいろとお世話いただいた酒肴の馳走にのどを潤し、昴の活動での日頃の思いや日常の生活について、自己紹介を兼ねて、一人一人語っていただきました。





総会後の定例レッスン：12回コンサート3部曲が新展開！

□総会合宿の2日目 8月27日（日）13:00～15:

30、同会場にて定例レッスンが行われました。

本並先生の指揮で、「この橋を作ったのはこの俺だ」

「SIYAHAMBA」休憩をはさんで「君死にたまふことなけれ」

「航路」の4曲を歌いました。ピアノ伴奏は西應静さん。

参加者は全32名でした。12回コンサートの3部曲「橋をつくった・・」「SIYAHAMBA」も、歌の構想が具体化してきました。「橋」は3人のソロが向井・川妻・奥村さんに、「航路」のテナーソロが伊藤さん、デュエットに伊藤・仲谷さんが決まり、歌のレッスンが本格化してきました。また「SIYAHAMBA」の日本語の付け方も試行錯誤を繰り返しながらも、リズム感を重視した”面白い！曲になりそうな予感を感じさせるレッスンとなりました。

花をおくろう

森田ヤエ子作詞
荒木栄作曲

静かに心をもやして

J=72 ca. F C Gm C F

ふぶきのよるをあるいてきた ぬかるみをとびこえてきた

B♭ p F C cresc.

ひでりにたたかれてきた あらしのよるをはしつてきた

T1, T2 f F B♭ D Gm C

てをとりあつて あるいてきた

13 F C7 F G C F A

ふしくれだったあれたてに ふるさとをつくる なかまのてからは

T1, T2 F Gm G Gm C7 F

なをおくろ オレンジの

BR BS

はなをおくろ おくろ オレンジの

花をおくろう 作詞 森田ヤエ子 作曲 荒木栄

吹雪の夜を歩いてきた
ぬかるみを飛び越えてきた
日照りにたたかれてきた 巖の夜を走ってきた
手を取り合って歩いてきた
節くれだった荒れた手に
故郷を創る仲間の手から
花をおくろ オレンジの

口数々の愛唱歌を生み出したこのコンビには、仲間達の祝婚歌も多い。この歌もうたごえ運動に参加していた仲間の結婚によせたもの。（「うたごえサークルおかげ」より。楽譜とも。）

えるしかありません。レッスンでは「誰、そんな音をだしているのは？」と叱られながら、でも楽しく参加しています。又有りあり難いのは、パート毎の音源をいただけすることです。作成には苦労されていること思います。

先日、定例の団内コンサート、総会と合宿に参加いたしました。団内コンサートは、各人の日頃の練習の成果を発表する場で、混声では見えない個人の魅力が引き出されていました。また総会で、年度の報告と今後の課題が話され、忌憚のない意見も多く、団員の団への思いがひしひしと感じられました。このような団員同士の情報交換を図れる機会がもう少しあればと思っています。新入団員だからかもしれません。

次は、次回コンサートに向けて曲を覚え、ついて行くことで精一杯です。早く合唱の本質である、声を合わせ、心を合わせ、さらに表情を合わせたハーモニーのすばらしさを実感したいと思っています。 平成30年8月

入団八か月を振り返って 向井 勝弘

私が昴に入団して、早いもので八ヶ月になります。

入団のきっかけは、平成28年1月の第10回コンサートを聴きに行ったことからです。決して若くはない40人を超える男性が、20曲もの曲を暗譜で、真剣に歌う姿に感動し、男声ならではの迫力が伝わりました。後日、平均年齢72歳越えと聞き、ビックリです。

当団員に知人がいらっしゃったこともあり、早速入団したいとレッスン見学させていただきました。夕方6時から2時間半、緊張の中にも充実した練習に驚きました。当時、現役で会社勤めをしている私にとっては時間の制約もあり、一年後の65歳で退職したのを機に、今年1月に入団させていただきました。さらに2月からは发声の基礎を学びたく、千秋先生の声楽教室も受けていますが、いまだに進歩を実感できていません。ゴルフと同様に奥深さを感じます。入団して感じたことは、歴史ある団で、組織が確立し役割分担がはっきりしているところです。そのため情報周知が迅速に行われています。また、団員の出席率が高いところです。各人が何か魅力を求める感じで、参加されているのだと思います。若さの秘訣はこんなところにあるように思います。

レッスン曲は私にとって初めての曲が多く、経験も浅いため、パートレッスンで音取りをして覚